



2023年5月19日

各位

会社名 ケミプロ化成株式会社
代表者名 代表取締役社長 兼 俊 寿 志
(コード：4960 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員社長室長 竹内 亨
(TEL：078-393-2535)

中期経営計画の進捗と経営目標ならびに業績計画修正のお知らせ

当社は、2021年5月20日に2022年3月期を初年度とする3ヶ年（2021年度から2023年度）の中期経営計画（以下、本計画という）を公表いたしました。

2023年5月10日付けの「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」にて開示した、2023年3月期の業績および2024年3月期の業績予想を踏まえて、本計画の進捗と経営目標ならびに業績の修正をお知らせいたします。

記

1. 経営目標ならびに業績の進捗と修正計画

(1) 経営目標(最終年度：2024年3月期)

(単位：%)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年3月期	
	実績	実績	計画	修正計画
経常利益率	2.7	1.2	5.0	2.0
自己資本利益率（ROE）	3.9	1.6	7.0	2.5
自己資本比率	34.0	33.3	35.0	34.0

(2) 業績

(単位：百万円)	2021年 3月期	2022年3月期		2023年3月期 注①		2024年3月期	
		計画	実績	修正計画注②	実績	計画	修正計画
売上高 注③	9,553	9,300	9,743	9,700	9,760	10,700	10,700
経常利益	110	150	264	120	121	500	200
当期純利益	180	100	179	70	71	325	120

注①：詳細は、2023年5月10日に開示した「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」ご参照

注②：詳細は、2023年4月20日に開示した「2023年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」ご参照

注③：2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用する影響により2022年3月期以降の業績計画における売上高は、従来基準に比べ約800～1,000百万円程度の減少を見込んでおります。（2022年3月期実績：817百万円減少）（2023年3月期実績：823百万円減少）

2. 2023年3月期の概況とトピックス

(1) 概況

2023年3月期は、円安の進行と地政学的リスクもあいまった原材料、エネルギー価格等の高騰に対して各種製品の価格改定を進めましたが、製造コストの増加を吸収するに至らず、加えて第3四半期以降、世界的な景気減速感が強まったことからグローバルマーケットにおいて主力製品に急速な在庫調整が発生し、売上高・利益ともに極めて厳しい環境でありました。結果 2022年3月期対比、増収減益で着地いたしました。

(2) トピックス：『Eco Vadis 社の 2022 年サステナビリティ調査で「シルバー」評価を獲得』



国際的な評価機関であるフランスのエコバディス社 (EcoVadis 社) による 2022 年のサステナビリティ (持続可能性) 調査を受け、総合スコアが上位 25%以上の企業に贈られる「シルバー」評価を初めて獲得いたしました。この評価は、昨今の SDGs をはじめとする社会的課題解決が企業に求められる中、事業に関係するステークホルダーの皆様とともにサステナビリティに対する共通の価値観醸成に向けた取り組みが評価された結果と捉えております。今回のシルバー評価獲得を弾みにサステナビリティへの取り組みを更に深化させるとともに、すべてのステークホルダーから信頼され、サステナブルな社会の実現に貢献しうる企業として認めて頂けるよう更なる研鑽を積んで参ります。

3. 2024年3月期の経営目標ならびに業績計画の修正理由

世界経済は、地政学的リスク終息の目処が立たず、原材料とエネルギー価格の高騰等は継続し、加えて欧米の金融システム不安の高まりもあり、極めて不安定かつ不透明な状況にあります。

この様な環境下、売上高については当社主力製品である紫外線吸収剤などのプラスチック添加剤の新規製品も含めた需要回復と販売強化、注力している受託製造製品等での品目拡充を引き続き更に強化すること等で当初計画通り 10,700 百万円を見込んでおります。しかしながら、利益面につきましては利益率の高い製品の売上比率を高めることや、原材料やエネルギー価格高騰等にもなうコスト増加分の価格転嫁に取り組むものの、厳しい環境要因をすべては吸収しきれない見込みであり、当初計画を下方修正し経常利益 200 百万円、当期純利益 120 百万円となる予想であります。

経営目標については、業績計画の修正を反映し下方修正しております。

以上

《ご参考》本計画の概要

①名称

ケミプロ化成経営革新プランⅡ～Reborn to Flexible～

②基本方針

《Reborn to Flexible》

「2021年度からの3ヶ年でReborn（再生）を完了し、

Flexible（しなやかな）企業を目指す」

*Flexible（し・な・や・か・な）の意味

し	消費者（顧客）目線の「し」	社会性が高い企業
な	なくてはならない「な」	永続性が高い企業
や	役割分担が上手い「や」	応用力が高い企業
か	環境順応性が高い「か」	柔軟性が高い企業
な	永く稼げる安定収益モデルを持つ「な」	強靱な企業

③経営目標(当初最終年度目標：2024年3月期)

経常利益率	5%
自己資本利益率（ROE）	7%
自己資本比率	35%

*ご参考：2021年3月期実績（経常利益率：1.2% ROE：4.1% 自己資本比率：33.2%）

2022年3月期実績（経常利益率：2.7% ROE：3.9% 自己資本比率：34.0%）

2023年3月期実績（経常利益率：1.2% ROE：1.6% 自己資本比率：33.3%）

④重点施策

◎12のタスクフォースの目標を達成することにより、経営諸課題を解決し経営目標・業績計画の達成を図る。

（注）詳細は、2021年5月20日に開示した「新中期経営計画策定に関するお知らせ」の別添資料をご参照下さい。

◎SDGsへの取組み

- ・各タスクフォースに目指すSDGsを設定
- ・全役員、管理職が『私のSDGs宣言』（*）を行い実践

*：各自の業務に関わる、関わらないを問わないSDGsにつながる個人別行動宣言

（注）本資料に記載されている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。